

鳴門教育大学附属小学校

学校関係者評価報告書

(令和5年度)

令和6年3月

鳴門教育大学附属小学校
学校関係者評価委員会

目次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
Ⅰ 学校関係者評価結果	3
Ⅱ 評価項目ごとの評価	5
A. いじめへの対応と人権教育への取組	
いじめの未然防止・早期発見・早期解決と人権学習への取組の状況	5
B. 生徒指導・特別支援教育の充実	
3つの大切〔自分たちのきまりをまもろう・すてきな自分になろう・みんな笑顔でいっしょにのびよう〕を柱にしたポジティブな行動支援への取組の状況	6
C. 小学校学習指導要領の趣旨をふまえた小学校教育の具現化	
STEAMIC (STEAM for IC)に教育に基づいた研究への取組の状況	7
参考：学校の現況及び目的	8

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は、保護者、大学教員、その他の学校関係者で構成された学校関係者評価委員会が、附属小学校の教育活動の観察や校長ほかとの意見交換などを通じて、附属小学校の自己評価の結果について評価することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価のスケジュール

R 5 年 7 月	第 1 回学校関係者評価委員会 ・自己評価にかかる目標及び評価項目について ・自己評価にかかる実施スケジュールについて
9 月	体育大会の様子を参観
1 1 月	オープンスクールの様子进行参観
R 6 年 3 月	第 2 回学校関係者評価委員会 ・自己評価の結果と改善方策について ・評価委員による評価について
3 月	学校関係者評価書の原案作成，評価委員による確認・決定

3 学校関係者評価委員会委員(令和 3 年 3 月現在)

笠井 栄作	はぐくみ保護者会顧問	
北島 一人	はぐくみ保護者会顧問	
瀧 誠司	はぐくみ保護者会顧問	
○湯口 雅史	鳴門教育大学 教授	○は委員長

4 本評価報告書の内容

(1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において評価項目AからCのすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4段階評価で記述している。また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併せて記述している。

(2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目AからCにおいて、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」及びその「評価結果の根拠・理由」を記述している。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要がある場合には、それらをそれぞれの評価項目ごとに要約して記述している。

(3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載している。

5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。

I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属小学校の学校関係者評価は、内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

優れている主な点として、次のことが挙げられる。

- いじめの未然防止・早期発見・早期解決のための学校生活調査を学年に応じて、説明を加えながら調査を実施した。児童を対象に行う学校生活調査は5月から毎月9回行い、変化する子どもの生活状況をつぶさに把握しようとしている。実施後は、学校生活調査は、学校生活のみならず、いろいろな不安や悩みについて教師が児童の話聞く回数が増えた。また、毎月定期的に実施することによって、児童がいつでも教師に相談しやすい体制を整えることができるようになった。そのため、以前にも増して児童から情報を得ることができ、教師側から不安や悩みを抱えている児童に働きかけたり、頑張っている児童に賞賛・激励する声かけをしたりする機会が増えた。さらに、教職員間での共通理解の助けとなる他、カウンセラーや特別支援コーディネーターとの連携を図るきっかけにもなっている。児童と面接した内容をアンケートに記載することで管理職への報告も容易となり、次年度に残す記録としても効果的である。
- 人権教育に関して、毎年、年間指導計画を見直すことにより、教育活動全体の中で人権意識を高められる教育を確実に行えるように取り組んできている。年間指導計画を基に、各学年の実態に応じた主題を設定し、児童たちの思いや気付きを大切に、授業を展開してきた。そうすることで、児童たちは主体的に課題解決をすることにつながった。また、教科等の目標（ねらい）とともに、人権の視点を明らかにして取り組むことの重要性も再確認された。
また、5月に研究授業・授業研究会を行っている。教師のかかわり、各教科等の特色を生かした人権教育のあり方・授業実践のあり方という視点で、本校の強みを生かした取組ができるように協議を深めることができた。また、低・中・高学年でチームを組んで授業実践や研究協議を行うなど、校内での研究授業、学習指導の研究などを充実させ、令和5年11月9日には、附属小学校において、第52回徳島市・佐那河内村人権教育研究大会（ブロック人権）を開催した。
- 昨年度までは、フィールドワークの行い方を変更して校内での研修を行ってきたが、今年度は、現地に足を運び、講師の先生からお話を伺っている。「知る」だけでなく、長年部落解放運動に取り組んできた生の言葉から地区の人々の思いや願いを受け取ることができた。差別の実態から学ぶ機会を得ることができ、教職員自身の人権感覚を見つめ直す機会となった。
- 昨年度より生徒指導年間計画に従って SWPBS（ポジティブな行動支援）を積極的に取り入れることができるよう職員で共通理解をし、実践している。教師主導ではなく、できるだけ子供たちから発案できる場の設定ができるよう代表委員会を機能させ、各クラスの代表者が集って成果や課題を話し合うことができるような場の設定も行った。このような場をもつことによって、子供たち自ら目標を設定し、実践から評価をスムーズに行うことにより SWPBS が効果的に働いたと実感した。
- 社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要であるとし、これからの子供たちには、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情

報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。そこで、「自分を生かし創る子供 -小学校段階における STEAM 教育を通して-」をテーマに、研究を進めている。

さらなる取り組み（改善）を期待する点としては、

- 各学年と管理職との連携によってスムーズな生徒指導ならびに保護者対応ができたものの、生徒指導案件全てを教職員間で共通理解することや、毎月実施の学校生活アンケートに伴う児童への聞き取りの時間の確保が難しいとの声も聞かれた。今後は、カウンセラーや特別支援コーディネーターとの連携を図りつつ、児童の心のサポートができる体制づくりの強化を図る。
- 年間計画を見直し、ブラッシュアップしていくことで教科等の関連や系統性を意識するとともに、教育活動全体の中で人権意識を高められる教育の確実な実践を推進する。
- 「自分を生かし創る子供 -小学校段階における STEAM 教育を通して-」をテーマにもつ研究を、さらに深化・充実を図る。
- 研究は、推進半ばであり来年度 2 月の研究発表会で、その成果が発表されることを期待している。
-

○ 「学校関係者評価結果」は、次の 4 通りで判断している（「Ⅱ 評価項目ごとの評価」の判断も同じ）。

- A：十分達成されている
- B：達成されている
- C：取り組まれているが、成果が十分でない
- D：取組が不十分である

○ 上記のほか、「学校関係者評価結果」として、評価項目のなかから抽出した「優れた点」、「改善を要する点」を要約して記述する。なお、「優れた点」、「改善を要する点」を要約するに当たっては、当該学校の目的に照らして、重要な位置付けにあると考えられる取組状況を考慮した上で、精選・整理したものを記述する。

II 評価項目ごとの評価

評価項目 A【いじめへの対応と人権教育への取組】

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

I いじめの未然防止・早期発見・早期解決について

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

今年度も、学校生活調査を、調査を複数回実施することにより、学校生活のみならず種々の不安や悩みについて児童から教師側に相談しやすい環境を整えている。このことは、自分や周りの人の人権が大切にされていると実感できるような環境がつくられ、一人一人が大切にされているという経験を積み重ねていくことで肯定的な人間関係が構築されている。

また、「気になる児童」を教職員で共通理解を図ることにより、児童の心を機微に気付きやすくすることができた。加えて、学校全体で児童を見守り育もうとする意識が高まった。特に今年度は「気になる」児童の見守りを、図書室やはぐくみスペースを活用しながら特別支援コーディネーターの役割を担う教職員が関わることによって児童の精神的自立を助けることができた。また、担任や学年団の負担の軽減につながった。

II 人権学習への取組の状況

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

年間を通して、さまざまな人権教育に関する取組を継続して行ってきた。校内での授業研究、教職員研修を生かした指導などを通して、児童の人権感覚が高まってきている。また、はぐくみ誌やオープンスクールでの公開授業等は、保護者へ向けての啓発活動として大変有意義な機会となった。今年度は、徳島市・佐那河内村人権教育研究大会の会場校であり、教員間で人権教育についての情報交換が増え、学年間のつながりも深まった。

日々の取組から、児童、保護者、教育実習生及び教職員といった、本校にかかわるすべての人の人権感覚が高まってきているように見受けられる。

評価項目B【生徒指導・特別支援教育の充実】

3つの大切〔自分たちのきまりをまもろう・すてきな自分になろう・みんな笑顔でいっしょにのびよう〕を柱にしたポジティブな行動支援への取組の状況

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「B+ 達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

① ポジティブな行動支援について

昨年度より生徒指導年間計画に従って SWPBS（ポジティブな行動支援）を積極的に取り入れることができるよう職員で共通理解をし、実践している。まずは実践の前にポジティブな行動支援をどのように行うことが望ましいか生活指導研究部で話し合い、行動目標設定表の作成と実施計画表例も作成し、実践した。本校児童の実態に応じて必要な項目を抜き出し、項目に沿って指導の方向性を共有し、各学級で具体的な行動の練習を行うことを目的とした。これはクラスや学年単位で行うのではなく、学校全体で取り組むことによって効果を実感している。

② 登下校に関する具体的指導

- 登校標準時間を確認し、懇談等で保護者にも伝えることにより、登校時刻が守られつつある。
- 年度当初にバス・汽車通学者を集めて指導することは、異学年での仲間意識の醸成につながり、登下校時に困ったときなどは、互いに助け合い、豊かな人間性の育成につながっている。
- 下校指導の結果や生活面で気になったことやよいことを職員会議やポータルミライムの掲示板で共有することにより、児童への即時指導へとつながり、バスや汽車の待ち方がよくなってきている。

③ 学校内の通行に関する具体的活動

廊下を走っている児童や右側通行できていない児童に対して、「歩きましょう」と肯定的な声掛けをするとともに、児童が主体的に考え、行動できるようにするために、教師から「どうして走ってはいけないのか」「どうして歩いた方がよいのか」などと問い掛けるようにし、児童の思考力や想像力、他者を思いやる気持ちを培うことができるようにした。

④ トイレの使い方や清掃活動

- トイレのスリッパのチェックシートを引き続き掲示し、確認することにより、児童が自主的にスリッパを並べるようになった。TV 朝会で生活委員会によるチェックの報告も、スリッパを揃えようとする意識の定着につながった。
- 掃除を静かにすることの良さを学年に応じて指導したり、頑張っている姿を放送で児童に伝えたりすることにより、学校全体で大変静かに丁寧に掃除ができるようになってきた。

⑤ 特別支援教育の充実

5年生では総合学習として、附属特別支援学校の児童との交流を中心に行っている。今年度は新型コロナも落ち着き、数年ぶりに直接的な交流を図ることができた。児童の発案により、5年生として、特別支援学校の友達とクリスマスパーティーを行った。このような取組を通して、障がい者に対する偏見の芽を摘み取るとともに、同じ学年という土俵に立ちつつ、自分だったら支援学校の友達とどのような関わりができるかということを考え、交流に生かすことができた。

評価項目C【小学校学習指導要領の趣旨をふまえた小学校教育の具現化】

STEAMIC（STEAM for IC）に教育に基づいた研究への取組の状況

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

（評価結果の根拠・理由）

①第3回授業実践研修会

令和5年度第3回授業実践研修会（令和5年6月10日）では、各教科・領域において子供が見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の具現化に向けて19本の授業実践を行った。授業後には、研修会を実施し、県内外の教職員の方々と資質・能力の育成に向けたよりよい授業の在り方について参会者の先生方と共に考えた。その結果、県内外の教育関係者に広く本校の授業実践を発信することができた。またコロナ5類移行後、初めての授業実践研修会となり、本校の子供たちの生き生きと学ぶ姿を実際に見ていただけたことから、本校のもつ使命、研究学校・奉仕学校としての役割を果たせた。

②本年度の研究

「自分を生かし創る子供 -小学校段階における STEAM 教育を通して-」をテーマとし、研究を進めている。研究背景として、「VUCA」の時代に生きて行かなければならない子供には、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要であると考えている。そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分だろう。これからの子供たちには、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。このような子供を「自分を生かし創る子供」とし、研究を進める。

STEAM 教育とは、「高等学校における教科等横断的な学習の中で重点的に取り組むべきもの」とされている。また総合的な探究の時間、理数探究を中心とした探究活動において実施されるものであり、「各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に活用することを通じた問題解決的な学習」である。そのような問題解決的な学習において「課題を自ら見つける力・物事をさまざまな面から捉え解決する力・新しい価値を創造する力」が育成できるとされている。まさに本校が目指す「自分を生かし創る子供」像に大きく重なると言えるのではないかと考え、「小学校段階における STEAM 教育を通して」という副主題を掲げ、研究を進めている。

【参考】

学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属小学校
- (2) 所在地 徳島市南前川町1丁目1番地
- (3) 学級等の構成 1学年 3学級 6学年 18学級
- (4) 児童数及び教員数(令和1年5月1日現在)
児童数 591人 教員数 28人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属小学校校則第1条において「心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施するとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における児童の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属小学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている小学校教育の目的の達成のため、次のような学校教育目標を掲げている。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主性、協力性、創造性、及び豊かな人間性をそなえ、社会の発展に寄与する態度をもって児童を育成する。

(3) めざす子ども像

本校は、学校教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- 思いやりある子ども
- たくましく生きる子ども
- よく考える子ども

(4) 令和5年度重点目標

鳴門教育大学、県市教育委員会、附属校園との連携を深め、中期目標・中間計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①人権教育の充実・いじめの未然防止と早期発見
- ②生徒指導・特別支援教育の充実
- ③小学校学習指導要領の趣旨をふまえた小学校教育の具現化

(5) 評価項目

上記重点目標と前年度自己評価を鑑み、次の3点の評価項目について自己評価を行う。

A いじめへの対応と人権教育への取組

いじめの未然防止・早期発見・早期解決と人権学習への取組の状況

B 生徒指導・特別支援教育の充実

3つの大切〔自分たちのきまりをまもろう・すてきな自分になろう・みんな笑顔でいっしょにのびよう〕を柱にしたポジティブな行動支援への取組の状況

C 小学校学習指導要領の趣旨をふまえた

小学校教育の具現化 STEAMIC (STEAM for IC)に教育に基づいた研究への取組の状況